

- 問1 弥生時代の代表的な遺跡である佐賀県の吉野ヶ里遺跡では、集落の周囲に深い壕（ほり）や木製の柵が巡らされ、高床倉庫や物見櫓などが計画的に配置されています。このような、外敵や野生動物の侵入を防ぐために周囲を囲んだ集落の形態を何と呼びますか。（2025年 群馬県公立入試 類似）
1. 国府 2. 寝殿造 3. 環濠集落 4. 門前町
- 問2 弥生時代に朝鮮半島から稲作が伝来したことで、縄文時代とは異なる社会状況が生まれました。生産力の向上や定住生活に伴って発生した出来事について、適切に説明しているものはどれですか。（2023年 茨城県公立入試 類似）
1. 冠位十二階が定められ、個人の才能や功績に応じて役職が与えられた。
2. 狩猟や採集が中心の生活となり、人々は獲物を求めて常に移動し続けた。
3. 収穫した稲の分配や土地の所有をめぐって、むら同士の争いが発生した。
4. 仏教が伝来し、各地で大規模な寺院の建設が始まった。
- 問3 3世紀の中国（魏）の歴史書には、当時の日本の様子が記述されています。邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から授かった称号と品物の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2023年 岩手県公立入試 類似）
1. 倭王武の称号と、鉄剣 2. 征夷大將軍の称号と、刀や鎧 3. 漢委奴国王の称号と、金印 4. 親魏倭王の称号と、金印や銅鏡
- 問4 弥生時代の遺跡からは、中央に2つの穴が開いた半月形の石器が数多く出土します。この道具を用いた当時の収穫方法と、その特徴について説明したものとして最も適切なものを選びなさい。（2024年 秋田県公立入試 類似）
1. 複数の石器を組み合わせて土を掘り起こし、田植えの前の耕作に使用していた。
2. 穴に紐を通して指にかけ、熟した稲の穂先のみを摘み取る「穂首刈り」を行っていた。
3. 石器の鋭い側面を使い、脱穀のために稲の茎から籾をこすり落としていた。
4. 穴に長い木の柄を取り付け、稲を根元から一気に刈り取る「根刈り」を行っていた。
- 問5 歴史上の生産活動の発展において、農具の素材が変化したことは大きな意味を持ちます。鉄製の刃先を用いた農具への変化について説明したものとして、正しい記述を選んでください。（2016年 富山県公立入試 類似）
1. 鉄は加工が困難であったため、刃先も含めてすべて石で代用する手法が普及した
2. 鉄製の農具は重すぎて実用的ではなかったため、主に祭祀用の道具として使われた
3. 鉄の刃先が導入された後も、土を耕す作業には一貫して木製のみの道具が使われ続けた
4. 木製の土台に鉄の刃先を組み合わせる工夫により、耕作の効率が向上した
- 問6 弥生時代から江戸時代までの外交上の主なできごとを整理した記録において、3世紀に邪馬台国の女王である卑弥呼が中国の魏に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった目的や背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2017年 富山県公立入試 類似）
1. 「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かることで、北九州の奴国を中心とした小国の連合体を統一し、女王の地位を証明するため。
2. 先進的な仏教文化や律令制度を日本に導入し、天皇を中心とした中央集権国家の基盤を早急に固めるため。
3. 朝鮮半島南部での鉄資源の確保を目的として、中国の王朝と軍事同盟を結び、高句麗や百済に対抗するため。
4. 中国の強力な王朝との外交関係を築き、その権威を背景に国内の統治を安定させ、周辺諸国との関係を有利に進めるため。
- 問7 弥生時代に製作された青銅器の一種で、兵庫県の五十六点や島根県の五十四点をはじめ、滋賀県や和歌山県といった近畿地方の府県で多くの出土が確認されている、豊作を祈るなどの祭礼に用いられた道具を何というか。（2024年 京都府公立入試 類似）
1. 石包丁 2. 勾玉 3. 銅矛 4. 銅鐸
- 問8 3世紀の弥生時代、邪馬台国の女王である卑弥呼が行った外交について述べた文として、最も適切なものを選択してください。（2015年 佐賀県公立入試 類似）
1. 中国の魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かった。
2. 中国の宋（南朝）に使いを送り、朝鮮半島南部での軍事的な指揮権を認められた。
3. 中国の隋に小野妹子を遣隋使として派遣し、対等な外交関係を求めた。
4. 中国の漢（後漢）に使いを送り、光武帝から「漢委奴国王」の金印を授かった。
- 問9 3世紀の倭（日本）において、邪馬台国の女王である卑弥呼が中国の魏へ使節を送った目的や、その当時の様子を説明したものとして、正しいものはどれですか。（2023年 大分県公立入試 類似）
1. 卑弥呼は中国の皇帝に対して、倭国内での地位を認めさせるのではなく、対等な立場での外交関係を求めて使節を送った。
2. 卑弥呼は鉄製の武器や農具を大量に輸入するために、朝鮮半島の楽浪郡を通じて後漢の皇帝へ朝貢を行った。
3. 卑弥呼はまじないを用いて人々に従えて国を治め、魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かった。
4. 卑弥呼は九州北部の奴国を統一し、大陸の優れた仏教文化を取り入れるために隋へ小野妹子を派遣した。
- 問10 3世紀の弥生時代、倭の邪馬台国の女王である卑弥呼がおこなった外交について述べた文として、正しいものはどれか。（2017年 東京都公立入試 類似）
1. 中国の魏の皇帝に使いを送って絹などを贈り、親魏倭王の称号と金印を授けられた。
2. 大宝律令によって定められた「調」という税として、各地から絹などの布を集めた。
3. 平清盛が大輪田泊を修築したことで、中国との間でさかんに貿易が行われるようになった。
4. 冠位十二階を定めて個人の才能や功績に応じた位を与え、中国との交流を深めた。
- 問11 佐賀県に位置する弥生時代の代表的な遺跡では、居住エリアの周囲を二重の濠（ほり）や高い柵が囲んでおり、外敵を監視するための物見櫓（ものみやぐら）の跡も見つかっています。この遺跡の名称と特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2022年 沖縄県公立入試 類似）
1. 板付遺跡 — 広場に川が流れる開放的な集落
2. 登呂遺跡 — 仏教寺院が建立された集落
3. 三内丸山遺跡 — 縄文時代の巨大集落
4. 吉野ヶ里遺跡 — 大規模な環濠集落
- 問12 弥生時代における「ムラ同士の争い」は、その後の日本の社会構造にどのような変化をもたらしましたか。当時の社会の流れとして最も適切な説明を選びなさい。（2024年 北海道公立入試 類似）
1. 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された
2. 争いを鎮めるために、各集落が完全に独立したまま交流を断つ鎖国のような状態になった
3. 争いを避けるために人々が再び移動生活に戻り、定住する集落が一時的に消滅した
4. すべての人が平等に食料を分配する仕組みが作られ、身分の差が完全になくなった
- 問13 弥生時代の社会の変化について述べた文として、当時の集落のあり方や道具の特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2024年 沖縄県公立入試 類似）
1. 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。
2. 仏教の伝来とともに巨大な前方後円墳が造られ、集落の形が大きく変化した。
3. 堅穴住居が並ぶ大規模な集落が形成されたが、外敵を防ぐための堀などは作られなかった。
4. 縄目の文様がある厚手で黒褐色の土器を使用し、主に狩りや採集を行って生活した。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 環濠集落	弥生時代に稲作が普及すると、土地や水をめぐって集落同士の争いが起こるようになりました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表されるこの形態は、集落の周りに壕（溝）を掘ることで、敵の侵入を物理的に防ぐ防衛機能を持っています。一方、選択肢にある国府は飛鳥時代以降の地方行政の中心地、寝殿造は平安時代の貴族の住宅様式を指します。
問2	答え 3 収穫した稲の分配や土地の所有をめぐって、 むら同士の争いが発生した。	稲作の開始により、安定した食料生産が可能になり定住が進んだ一方で、水利権や肥沃な土地、蓄えられた稲をめぐると対立が生まれました。当時の遺跡からは、戦いに備えて集落の周囲に深い堀を巡らせた「環濠集落」や、木製の武器、矢じりが刺さった人骨などが発見されており、組織的な紛争があったことが分かります。
問3	答え 4 親魏倭王の称号と、金印や銅鏡	中国の歴史書（魏志倭人伝）によると、3世紀に邪馬台国の卑弥呼が魏へ使いを送り、朝貢を行いました。その際、魏の皇帝から「親魏倭王」という称号とともに、その証となる金印や100枚の銅鏡などの返礼品を授けられたと記されています。なお、1世紀（紀元57年）に後漢の光武帝から金印を授かったのは奴国の王であり、混同しないよう注意が必要です。
問4	答え 2 穴に紐を通して指にかけ、熟した稲の穂先のみを摘み取る「穂首刈り」を行っていた。	当時の稲は現在の品種とは異なり、一斉に実るのではなく時期にばらつきがあったと考えられています。そのため、石包丁を用いて熟した穂だけを丁寧に選んで摘み取る「穂首刈り」という収穫方法がとられていました。中央の2つの穴は、作業中に道具が手から落ちないように、植物の繊維などで作った紐を通して指に固定するための工夫です。
問5	答え 4 木製の土台に鉄の刃先を組み合わせる工夫により、耕作の効率が向上した	古代の農具の改良に関する資料などでは、木製農具の先端部分を鉄で補強する記述が見られます。鉄は木材よりも硬く鋭いため、これを刃先として利用することで土地を効率よく耕し、生産性を高めることができました。こうした技術の進歩が、のちの国力の増大や社会構造の変化を支える基盤となりました。
問6	答え 4 中国の強力な王朝との外交関係を築き、その 権威を背景に国内の統治を安定させ、周辺諸 国との関係を有利に進めるため。	当時の倭（日本）では多くの小国が争っていましたが、卑弥呼は邪馬台国を中心とする連合体をまとめるため、中国の「魏」という大国の威光を利用しました。中国の皇帝から正式に「王」としての称号を授かることは、国内における支配の正当性を高める強力な武器となりました。1世紀の「漢委奴国王」の金印（後漢へ派遣）や、後の時代の仏教伝来、朝鮮半島への出兵とは時代や背景が異なる点を見極める必要があります。
問7	答え 4 銅鐸	弥生時代には、大陸から青銅器の技術が伝わり、日本では主に祭りの道具として独自に発展した。銅鐸は近畿地方を中心に、四国や中国地方からも多く発見されており、稲作の豊作を願う儀式などで使われたと考えられている。選択肢にある銅矛も青銅器だが、これらは九州地方を中心に多く出土する傾向がある。
問8	答え 1 中国の魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号 や金印、銅鏡などを授かった。	3世紀、多くの小国が争っていた日本（倭）において、邪馬台国の卑弥呼は中国の魏に使いを送りました。このことは中国の歴史書『魏志』倭人伝に記されています。卑弥呼は魏の皇帝から「親魏倭王」の称号とともに、金印や多数の銅鏡（三角縁神獣鏡など）を授かることで、その権威を背景に国内の統治を安定させようとした。他の選択肢にある漢との外交は1世紀（奴国の王）、宋との外交は5世紀（倭の五王）、隋との外交は7世紀（聖徳太子ら）の出来事であり、時代が異なります。
問9	答え 3 卑弥呼はまじないを用いて人々を従えて国を 治め、魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金 印、銅鏡などを授かった。	『魏志』倭人伝には、卑弥呼が「鬼道（まじない）」によって衆を惑わした（人々を従えた）ことや、魏に使いを送って「親魏倭王」という称号を授かったことが記されています。これは、中国の皇帝に貢物を送る（朝貢する）ことで、自らの支配者としての正当性を認めさせ、他国に対して有利な立場に立つとする当時の国際関係の仕組みを反映しています。
問10	答え 1 中国の魏の皇帝に使いを送って絹などを贈り、 親魏倭王の称号と金印を授けられた。	3世紀前半、邪馬台国の女王であった卑弥呼は、中国の三国時代のひとつである「魏」に使いを送り、貢ぎ物を贈る「朝貢」を行いました。これにより、魏の皇帝から「親魏倭王」という称号と、金印、銅鏡などを授けられました。これは、中国の王朝から認められることで、国内における自らの支配力を高める狙いがあったと考えられています。他の選択肢にある「冠位十二階」は飛鳥時代の聖徳太子、「大輪田泊」は平安時代末期の平清盛、「大宝律令」は奈良時代直前の制度であり、時代が異なります。
問11	答え 4 吉野ヶ里遺跡 ― 大規模な環濠集落	佐賀県の吉野ヶ里遺跡は、復元された高い柵や深い濠、そして大規模な物見櫓の跡から、当時の極めて高い防衛意識がうかがえる代表的な環濠集落です。これは、当時の社会が「クニ」へとまとまっていく過程で、集落間の抗争が激しかったことを裏付ける重要な史跡です。
問12	答え 1 争いを通じて周辺のムラが統合され、クニと 呼ばれる強力な政治的まとまりが形成された	土地や水をめぐると争いは、勝利した集落が敗北した集落を吸収・統合するプロセスでもありました。これにより、複数の「ムラ」が統合されて「クニ」へと大規模化し、その中心に王のような強力な指導者が現れることで、初期の国家形成へとつながっていきました。
問13	答え 1 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土 器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。	弥生時代は、稲作の普及に伴い金属器（鉄器・青銅器）や、縄文土器に比べて薄くて硬い弥生土器が使われ始めました。社会構造の変化により、争いから身を守るための環濠集落が築かれたのがこの時期の大きな特徴です。縄目の文様がある土器や、防御施設のない大規模集落（三内丸山遺跡など）は主に縄文時代の特徴です。